

4番 畠山和英です。令和3年第3回岩泉町議会定例会に当たり、地域が抱える課題の一端について一般質問を行います。

平成28年8月30日の台風災害から5年余りが経ちました。あの町内全域を襲った未曾有の大被害から立ち上がるべく、国、県はもとより全国各地から応援をいただきながら、最優先課題として町を挙げて再建に取り組み、暮らしの再建、生業の再生など台風災害からの復旧・復興事業はおおむね完了したところです。

次なるステージは、ポスト復興、如何にしてこの先の振興、発展を築いていくかに移ってきています。町の最重要課題は、被災前から続く問題でもありますが、少子・高齢化、人口減少、過疎の問題であります。

あたかも、今、町では、新しく制定された国の過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法による新たな過疎対策に取り組んでいます。これまでの産業振興、雇用の確保等の定住施策に加えて、新法が求める理念や方向性として示す移住・定住、交流人口の増大、人材育成など、その実現に

向けて住民らを巻き込んだ町当局の積極果敢な取り組みが期待されます。

そのような町の中にあつて、人口減少、過疎化が著しく、地域社会の活動が縮小し疲弊してきている大川地域の活性化に向けた課題、懸案事項、身近な問題について、4点をとり上げ具体的に伺います。

最初は、大川七滝つり橋の整備についてであります。

現在、コロナ禍で休止、中止している事業はありますが、大川地域では、おおかわむら地域振興協議会などを中心に、大川七滝夏まつりなど地域活性化イベントの開催、「大自然ときこりの里おおかわ推進事業」を計画し、里山体験、砂金掘り体験、ジビエを使ったまたぎ料理講習会など体験交流事業を展開しています。また、旅行会社等と連携し里山砂金掘り体験ツアーや里山薪割り体験モニターツアーなどを実践しています。

大川七滝つり橋は、平成28年度に予算化され整備する予定でしたが、台風第10号の発災により凍結となって現在に至っています。

町の台風災害の復旧・復興事業はおおむね完了し、大川七滝つり橋もそろそろ整備する時期にきています。アフターコロナに備えて、今のうちに整備をし、準備をしておくことも大事です。

このつり橋は、美しい景観を形成し、山村、里山の体験交流事業を促進し、大川地域の活性化を推進するシンボルとなる施設であります。大川七滝のつり橋の整備の方向性はどのようにする考えか、町長の所見を伺います。

2点目は、薪資源利活用「薪ステーション」の推進についてであります。

おおかわむら地域振興協議会では、旧大川中学校施設の一部を借りて、「薪ステーション」事業を実施しています。薪ストーブの普及、薪を供給する体制を構築する計画で、本年度は里山体験モニターツアーに薪割りの体験等がメニューに組み入れ実施しています。まだ、実証段階ですが、今後、町内外に販売を展開することとしています。

一方、町では、昨年度、岩泉町地域薪資源利活用調査を実施しています。調査結果の報告書では、木質バイオマス活用

の一つの柱として「木材収集ステーション（木の駅）」を各地区に設置する構想が示されています。

計画実施する内容は、地域振興協議会ですすめている「薪ステーション」計画とおおむね同じような事業と思われます。「木の駅」のモデル事業として先行して大川地域に進めてはどうかと考えます。

町が構想する「木の駅」は、今後どのように具現化し展開する考えか伺います。

3点目は、公営住宅の確保についてであります。

地域の交流人口、関係人口を拡大し、移住・定住を促進するには住む場所の確保が必要です。移住を勧めるにも一端は公営住宅など住む家が無ければなりません。

町営住宅の大川団地は、長屋形式の住宅1棟5戸で、災害工事関係者が入居していましたが、現在は空き室となっています。町では、現在、入居募集はしておらず、今後、解体処分をすると伺っていますが、その後の公営住宅の整備確保はどのようにする考えか伺います。

また、来春には、大川小学校、釜津田中学校が学校統合に

より閉校となります。教職員住宅は、大川小学校には4棟8戸、釜津田中学校には2棟3戸があります。これらの教職員住宅は、地域に住む人を増やすという観点にたって、用途変更し、町民、移住者等の公営住宅として活用すべきと考えます。どのようにする考えか伺います。

4点目は、「サンパワーおおかわ」への公衆トイレの設置についてであります。

「サンパワーおおかわ」の施設前は、バス停留所が設置され、宮古方面、岩泉方面、釜津田・唐地方面への乗り継ぎ場所として活用されています。

しかしながら、この施設の箇所には公衆トイレが無く、長い時間乗車するバス利用者などは不便をきたし、困っている状況にあります。

また、来春からは学校統合により釜津田の中学生は岩泉中学校への遠距離通学となり、スクールバスの休憩箇所として確保が求められます。

このように、住民が困っている「サンパワーおおかわ」への公衆トイレの整備が求められています。町長の見解を伺

います。

また、本施設には、外から使える消防屯所のトイレが設置してありますが、一般町民への開放はされていません。整備がされるまでの間、利用できるように対処できないものか、併せて伺います。

以上、希望と元気がでるような前向きな答弁をお願いし、この場からの質問を終わります。

#### 4番 畠山 和英 議員の御質問にお答えします。

まずはじめに、大川七滝のつり橋の整備についてであります。平成25年9月、おおかわむら地域振興協議会から整備に係る要望を受けまして、平成27年から事業を執り進めておりました。

しかし、平成28年台風第10号豪雨災害により甚大な被害を受けたことから、これら復旧・復興関連事業を最優先としてまい進してまいりました。

この間、町を取り巻く情勢は大きく変化しておりますが、事業の経緯などを踏まえますと、地域が目指す交流人口拡大のための観光資源となり得る可能性がありますことから、再度、整備規模や費用対効果等について、地域の皆様と協議をしながら、検討してまいりたいと考えております。

次に、薪資源利活用の「薪ステーション」の推進についてであります。町では昨年度、地域木材の利用による温室効果ガス排出量の削減や、地域の資源循環による持続可能な地域づくりを目標に、地域薪資源利活用の基礎調査を実施し、エネルギー消費が大きな公共施設等において、木質バイオマスボイラーを導入した場合の諸課題を整理したところです。

併せて、木材の供給方法も検討しましたが、木材収集ステーション方式、いわゆる「木の駅」も案の一つに含まれております。

他の案では、チップや薪による木の駅を介して供給する方法や、既存の木材工場から直接供給する方法なども想定されております。

いずれの案も、利用者の事業経営に見合う単価で設定できるかが課題として挙げられておりますので、現在、木質バイオマスボイラーの導入の検討と



併せて、単価に合った木材の調達、供給が出来ないか調査を継続しているところです。

御提言の大川地域において、地域の活性化を目的として地域振興協議会が事業化を目指している「薪ステーション」という新しい薪供給の仕組づくりの実現に鋭意努力されていることに対し敬意を表します。

町といたしましては、森林経営管理制度も活用し、手入れ不足となっている森林の整備と連動した仕組づくりなど連携できるものについては、地域の皆様と協働し推進してまいりたいと考えております。

次に、町営住宅の確保であります。現在、大川地区の町営住宅は4団地11戸となっております。

このうち御質問の大川団地の1棟5戸につきましては、昭和54年の建築で42年が経過し、老朽化により、現状のままでは入居できないことから解体を予定しており、現時点においては、新たな整備は計画していないところであります。

次に、大川小学校及び釜津田中学校の学校統合後の教職員住宅の活用についてであります。が、議員御案内のとおり、統合となります2校の教職員住宅は、木造の戸建て住宅7戸と、鉄筋コンクリート造の集合住宅4戸を合わせた11戸となっております。

この住宅の活用にあたりましては、老朽の程度や耐用年数等を勘案しながらの判断となりますが、活用が可能な住宅については、町民の皆様や移住・定住者向けの住宅としての活用や、公売などについて検討を進めてまいりたいと考

えております。

いずれにいたしましても、移住・定住を進める観点から住宅の確保は重要でありますので、既存の町営住宅や教職員住宅、さらには空き家バンク登録住宅の利活用を含め、検討してまいりたいと考えております。

次に、サンパワーおおかわへの公衆トイレの設置についてであります。町民バスの利用者や、遠距離通学などにおいてトイレの確保は必要であると認識しております。

このような環境の中、通学途中のトイレの確保については、大川支所のトイレの利用など、今後地域の皆様とも意見交換をしながら対応してまいります。

なお、サンパワーおおかわのバス停につきましては、消防屯所併設のトイレをバス利用者の皆様

に利用いただけるよう関係者の皆様と協議してまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。